

1. 第22期（平成28年度）事業報告 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

事業活動に関する全体報告

第22期（平成28年度）は公益財団法人に移行して3年目となりました。南魚沼市との間では、美術館の管理運営に関する協定書（期間は、平成26年4月1日から平成36年3月31日まで）に基づいて年度協定書を交わし、管理運営の補助金として年間600万円の指定管理料が支払われました。芸術・文学・スポーツの分野を中心に、今後とも南魚沼市と連携・協力していく所存です。

「環日本海沿岸諸国との国際交流援助事業」については応募が1件あり、選考委員会で審議のうえ採択いたしました。

また、「国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業」は「市報みなみ魚沼」や「イケビふれあい通信」、ホームページなどで広報活動を活発に展開した効果によって、3件の応募がありました。選考委員会で審議した結果、3件とも甲乙つけがたく、今回は特別に3件とも採択いたしました。

展覧会部門は事業計画にあった12回の企画展覧会を予定通り開催いたしました。また、展示室が急遽一部屋空いたため、所蔵品展「パリの出逢い—藤田嗣治とヴァシル・ストイロフー」を6月に企画展と一緒に同時開催しました。以下、主な展覧会とイベントについて説明いたします。

県内在住の作家を紹介する展覧会として、油彩画展（高橋和義、池山阿有）、彫刻展（家族三代展）、キルト展（菊池登美子）、版画展（坂西徹朗）を開催しました。特にキルト展は魚沼地域では初の大規模な展覧会だったこともあり、大勢の女性客で賑わいました。また、当館の運営において長年尽力していただいた彫刻家・野上公平氏の遺作展を開催しました。

地域の交流と文化活動を促進するための企画として、「八海山夢展」「南魚沼郡市児童生徒美術展」「魚沼ベストショット展」を開催しました。

若い芸術家の育成・支援企画展として、東京在住の木村浩之氏による相撲をテーマにした日本画と相撲人形を展示した「はっけよい大相撲」を開催しました。

冬季特別展として、明治大学特任教授の杉原厚吉先生が制作した錯視立体を展示了「錯覚展」を開催しました。新聞各紙やテレビ2社に取り上げられ、県内各地からの来館者が増えたため、会期を一か月間延長しました。

1月に開催した「第3回雪見展」は2日間で2,600人以上の来館者を記録しました。

また、3月5日には「錯覚展」の関連イベントとして、八海山麓スキー場を会場に、地元住民の協力を得て雪で錯覚すべり台を作り、大好評でした（タテ・ヨコ10㍍四方）。

子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）に応募した補助金の申請が採択され、ワークショップ「葉っぱ de アート in 池田記念美術館」と「木の標本を作ろう」を開催しました。

スポーツ関係部門では、巨人で活躍した篠塚和典氏による講演会や、各種スポーツカードの展示のほか、協賛事業として「上越沿線少年親善野球大会」「南魚沼グルメマラソン」などに参加しました。

収益事業としては「売店収入」「喫茶収入」「スポーツカードショー収入」がありますが、年3回（春・秋・冬）開催されたカードショーには県外からも多数の参加者がありました。

以下は、過去5年間の入館者数、有料入館者数です。

	入館者（人）	有料入館者数（人）
18期（H24年度）	19,432	8,761
19期（H25年度）	16,556	7,806
20期（H26年度）	19,597	11,960
21期（H27年度）	16,471	7,601
22期（H28年度）	20,302	9,939

第22期（平成28年度）は4月からリピーター数の増加を目指して年間パスポートを発行しました。料金は年間3,000円。年度末の3月末までに112人の方から申込みがあり、何度も来館していただいたこともあって、平成10年（1998年）10月開館以来、年間入館者数が初めて2万人を超えるました。

次に、過去5年間の事業収益の内容です。

	入館料	企画事業収入	カードショー収入	売店収入	喫茶収入	合計（円）
18期 (H24)	4,418,860	3,812,866 カードショーの 収入2回分含む 339,440 415,220		2,621,288	1,273,057	12,126,071
19期 (H25)	3,677,800	2,374,488	987,180	2,081,002	1,283,461	10,403,931
20期 (H26)	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938	15,857,689
21期 (H27)	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161	15,270,527
22期 (H28)	5,316,582	1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829	12,206,440

第20期（平成26年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制10周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が3本あり、入館者数が増加しています。また、第21期（平成27年度）は絵画1点の委託販売料（224万円）と文化庁からの企画展助成金（333万円）があったため企画事業収入が増加しています。

第22期（平成28年度）の大きな特徴として、冬場の来館者数が大幅に増加した点が挙げられます。平成29年1月から3月までの3か月間の来館者数は8,970人（年間の44.2%）、また、入館料は2,004,000円（年間の37.7%）にのぼりました。南魚沼市から補助金を得て入館無料にしている「南魚沼郡市児童生徒美術展」の期間に「雪見展」を開催したこと、体験型の企画展として1月7日から3月27日まで他の展覧会と同時開催した「錯覚展」が新聞各紙やテレビに取り上げられた結果だと思われます。複数の展覧会を同時開催し、大きなイベントを繰り込むことが来館者増加につながることを学ぶことができました。今後は、他の季節にも応用したいと考えます。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業につき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

平成29年1月24日（火）に財団補助事業に関する選考委員会を開催。以下の応募事業について審議した結果、援助事業として採択し、10万円を補助しました。

選考委員会出席者

- 1、委員長（理事長・池田哲雄）※平成28年5月18日開催の理事会で委員長に選任
- 2、委 員（学識経験者・宮内孝知、元早稲田大学人間科学部教授）※委員長指名
- 3、委 員（事務局長・高橋良一）※委員長指名

援助対象：国際大学GSO-EC（学友会）

援助事業：国際大学スキーデー（平成29年2月25日、土曜日）

事業目的：雪国の代表的スポーツであるスキー、スノーボードを通して、国際大学に在学する環日本海沿岸諸国のモンゴル・中国を含む諸外国の学生と、南魚沼市民（地域ボランティア）との交流と相互理解を深めること。

事業内容：ボランティアの指導のもと、スキー、スノーボードの初心者を対象に、安全に滑る技術やリフト乗車の注意点などを学んだ。

事業報告：国際大学のモンゴル・中国を含む諸外国の学生と主催関係者総勢128名（外国人103名、日本人25名）が参加。スキー、スノーボードの体験を通して、白銀の世界を満喫し、雪国のスポーツ文化の一端に触れることが出来た。初心者ながら参加者の多くは「楽しかった」「またやりたい」との声が多く、地域ボランティアとの相互理解も深めることができた。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

平成 29 年 1 月 24 日（火）に財団補助事業に関する選考委員会を開催。当援助事業は前回応募がなく、奇数年の昨年度も繰り越しで募集していたが、本年度は応募が 3 件となった。3 件の応募事業について審議した結果、いずれも有意義かつ国際的に必要とされる研究活動と認められ、3 者甲乙つけがたく、また、研究の将来性も高く評価されました。よって、助成を 1 件に絞るのではなく、3 者ともに選定することを検討し、応募要項記載の助成金 10 万円に加えて 5 万円を増加した計 15 万円を 3 者に均等に助成することに決定しました。それに基づき、下記 3 件の研究にそれぞれ 5 万円を助成しました。

選考委員会出席者

- 1、委員長（理事長・池田哲雄）※平成 28 年 5 月 18 日開催の理事会で委員長に選任
- 2、委 員（学識経験者・宮内孝知、元早稲田大学人間科学部教授）※委員長指名
- 3、委 員（事務局長・高橋良一）※委員長指名

①：総合型地域スポーツクラブと企業との連携・協働のあり方に関する考察およびドイツをモデルとした地域スポーツクラブの日本への導入に関する研究

【応 募 者】事業創造大学院大学事業創造研究科 岡村誠（新潟県職員）

事業創造大学院大学 教授・富山栄子

事業創造大学院大学 唐木宏一／新潟医療福祉大学 西原康行

【研究内容】ドイツをもモデルとした「地域スポーツクラブ」を日本へ導入する研究。ドイツでは地域住民の運営参画がスポーツクラブを支えており、スポーツ推進の原動力となっている。ドイツと日本のクラブを比較する中で、クラブ職員の「オーナーシップ」が果たす役割が重要と考え、総合型スポーツクラブの望ましいインターナルマーケティングのあり方を考察。

【研究の今後】本研究は、事業創造大学院大学の修士論文として進めてきた。今年度の大学の紀要にも掲載。岡村誠氏は立命館大学産業社会学部の博士課程に進学し、本研究を全国に拡大しながら継続する予定。

②：スポーツ関連事業のベトナム進出に関する研究

【応 募 者】事業創造大学院大学 石井和昭（アップルスポーツカレッジ副校長）

事業創造大学院大学 教授・富山栄子

【研究内容】日本の一部大手フィットネス企業が 2000 年あたりから東南アジアへ進出し始めた中で、本研究はベトナムに着目し、先に進出している企業をリサーチして、ベトナム市場の現状や特性を考察しながら、今後に向けた進出の業態・方法を探る。ベトナムでは小学校にプールがなく、水難事故で死亡するケースも多いため、国策として水泳指導に力を入れているという。

【研究の今後】本研究は、事業創造大学院大学の修士論文として進めてきた。研究の結果、ベトナムの人口は増加傾向にあり、市場の拡大が見込まれ、親日と相俟ってベトナムにはスポーツビジネスのチャンスがあると確信。

③：スポーツ活動や地域労働力としての高齢者の活動性維持を目的とした、「変形性膝関節症」の魚沼基幹病院における調査と理学療法の効果測定および経年変化の詳細観察と記録

【応募者】魚沼基幹病院整形外科 医師・目良 恒／ほか同病院スタッフ 15名

【研究内容】高齢者の自立支援や要介護問題は医療政策や産業構造の面から多くの関心が寄せられている。そんな中で、魚沼基幹病院に治療に訪れる「変形性膝関節症」の患者さんの協力のもと、その理学療法治療の効果の評価や患者の生活背景を把握し、その経年変化を観察記録することによるデータを蓄積、地域医療の向上や高齢者のスポーツ活動の促進などに貢献していく。

【研究の今後】年度末に集計を行い、問題点・課題を表出する。課題克服のための治療戦略を検討し、次のプロジェクトへ発展させ、2018年年の日本臨床スポーツ医学会、日本スポーツ・膝・関節学会などの発表を目指す。

3、美術館事業

1) 展覧会

① 高橋和義 回顧展 一春待つ残雪の里一

■会期：4月8日（金）～4月25日（月） 16日間 661人

十日町市出身で、現在光風会会員の高橋和義の個展。長年、雪どけ時期の風景を描いてきましたが、今回の個展では光風会展や日展に出展した作品を中心に56点を展示し、画業の集大成となる展覧会になりました。会期中、作品について高橋氏から説明をしていただくギャラリートークを開催、24名が参加しました。

② 美の系譜 一斎藤道男・鶴巻純子の家族三代五人展一

■会期：4月29日（金・祝）～6月5日（日） 34日間 1,460人

三条市の彫刻家・斎藤道男と妻・鶴巻純子、純子の父・鶴巻三郎（紙塑人形の創始者）、道男・純子夫妻の子、鶴巻謙郎（日本画）・鶴巻貴子（版画）の作品を一堂に展示した展覧会。彫刻と工芸、日本画、版画とバラエティーに富んだ展覧会となりました。会期中はギャラリートークを2回開催、合計で85名が参加しました。三条市出身ということもあり、三条新聞などマスコミからも大きく取り上げられました。

③ 池山阿有展

■会期：6月10日（金）～7月18日（月・祝） 34日間 1,132人 ※藤田展も含む

池山阿有は日展会員・光風会理事で、新潟県美術家連盟会長を務め、新潟県洋画界の重鎮です。展覧会は、日展で特選を受賞した「炉ばた」のシリーズを中心に構成し、企画展示室1室で31点を展示しました。展示など、光風会会員の方々からご協力をいただきました。

④ パリの出逢い 一藤田嗣治とヴァシル・ストイロフ一

■会期：6月10日（金）～7月18日（月・祝） 34日間 1,132人 ※池山展も含む

藤田嗣治とブルガリアの画家ヴァシル・ストイロフの関係に焦点を当てた展覧会。当館で所蔵するストイロフの1929年の素描「藤田嗣治像」には「嗣治 Foujita」のサインがあり、二人の交流の証と言えます。今回の展覧会では、その素描を軸に、ストイロフの作品と、藤田のパリ滞在時の挿画「エロスの愉悦」を展示。パリで出逢った二人の友情を紹介しました。

⑤ 第17回 八海山夢展

■会期：7月23日（土）～8月30日（火） 34日間 2,403人

地元の美術愛好家を中心に、絵画・書道・写真・水石・俳句・工芸の6部門約120人が出展しました。出展者との交流を図るイベント“美のツボ”を5部門で開催。解説会やワークショップなど子供から大人まで楽しめるイベントとなりました。開催にあたり南魚沼市の企業3社から協賛金をいただきました。主催は八海山夢展実行委員会。

⑥ キルト浪漫 —菊池登美子作品展—

■会期：9月3日（土）～10月11日（火） 34日間 3,366人

小千谷市在住のキルト作家・菊池登美子の個展。日本の心を表現するキルト作家として、全国的に評価が高く、魚沼地方では初の展覧会となりました。キルトファンの女性を中心に大勢の来館者がありました。また、同時期に開催されていた十日町市と南魚沼市塩沢のキルト展でもチラシを配布するなど、広報に協力していただきました。会期中は、土・日に作者による作品解説を実施。そのほか、キルトのワークショップを4回開催、合計45人が参加しました。

⑦ 野上公平遺作展

■会期：10月15日（土）～11月8日（火） 22日間 926人

一昨年亡くなった南魚沼市出身の彫刻家・野上公平の遺作展。二科会を中心に活躍し、当館のアドバイザリースタッフとして長年貢献していただきました。初期の木彫作品から晩年の石膏彫作品まで34点を展示しました。また、友情出品として同じ二科会の彫刻家8名から出展していただきました。野上氏の業績を偲んで、二科会の藤巻秀正氏を中心に「野上公平氏を語る会」を開催、ご遺族や彫刻家仲間など96名が参加しました。

⑧ 日本水墨院新潟県支部 逸水会 水墨画展

■会期：11月3日（木・祝）～11月8日（火） 6日間 286人（野上展入館者も含む）

日本水墨院新潟県支部逸水会（会の名称が変わりました）の会員による展覧会で、会員の水墨画50点を展示しました。（多目的ホールのみで開催）

⑨ はつけよい大相撲 —木村浩之 日本画と力士像—

■会期：11月12日（土）～12月25日（日） 38日間 1,109人

東京在住の画家・木村浩之の相撲をテーマにした日本画と力士像を展示。力士たちの姿を力強く纖細に描き相撲の心技体に迫った日本画と、ユーモアのある独特の相撲人形は、老若男女を問わず心を和ませ、日本画ファンだけでなく、相撲ファンや広い年代に好評でした。会期中

は3つの関連イベントを開催。「ギャラリートーク&相撲甚句ステージ」33名、「ライブペインティング+みんなでお相撲さんを描こう」22名、「クリスマス・ギャラリートーク（茶会・抽選会）」23名の参加がありました。

⑩ 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月7日（土）～1月17日（火） 10日間 3,749人

（うち雪見展来館者2,645人含む）

南魚沼市及び湯沢町の子供たちの作品を約500点展示しました。絵画だけでなく、版画や工作の作品もあり、作品解説会（講師：新潟大学教授・佐藤哲夫）には保護者を中心に106名の参加がありました。期間中は南魚沼市の協力で、入館を無料としました。

⑪ 魚沼ベストショット展 PartVI

■会期：1月20日（金）～2月28日（火） 35日間 3,141人（錯覚展入館者も含む）

県内外の写真家から、風景や暮らしなど、魚沼地域の変化に富んだ美しい自然を表現した自慢のベストショットを展出していただきました。今回で6回目となり、出展者も40名に増加しました。また新企画として、昔使っていたカメラと作品を展示した「My Favorite Things（私のお気に入り）」のコーナーを新設し、作者の思い出と想い入れをアピールしていただきました。作品説明会では作者が自作について解説を行い、57名が参加しました。初心者向け写真教室には35名が参加、当日撮影した写真を期間中パネルに展示しました。

⑫ 坂西徹朗 版画展

■会期：3月3日（金）～4月4日（火） 29日間 2,380人（錯覚展入館者も含む）

魚沼市在住の版画家・坂西徹朗の個展。今回で3回目の展覧会でしたが、版画愛好家や版画家仲間、山仲間など大勢の来館者がありました。木版画59点と、坂西氏が指導している魚沼市宇賀地小学校版画教室の子供たちの作品（21点）を展示。画文集『配食弁当』の原画と原稿も展示しました。『配食弁当を語る会』を開催し、78名の参加者がありました。

⑬ [冬季特別展示] 錯覚展 一不可能立体の不条理世界一

■会期：1月7日（土）～3月27日（月） 67日間 8,813人（会期一か月延長）

（「雪の錯覚すべり台」来場者500人は別）

実際とは違うように見えてしまう錯視立体を多目的ホールに展示しました。作者は、明治大学先端数理科学インスティテュート副所長の杉原厚吉特任教授。鏡を使った作品、実際にボールをころがして錯視体験ができるすべり台、映像など展示方法を工夫した結果、子供にもわかりやすく、親子での来館が増加しました。また、3月5日には近隣の八海山麓スキー場を会場にして、杉原教授監修のもと、地元の八海山麓グリーンクラブ会員の協力を得て、「雪の錯覚すべり台」（タテ・ヨコ10メル四方）を制作し、披露しました。このイベントは南魚沼市観光事業補助金の対象事業に採択され、当日は500人以上の来場者がありました。

2) スポーツ関係の展示

スポーツ文化展示室を見ていただいた方に、歴史的なスポーツ関連展示品だけでなく、現代の「スポーツカード文化」についても紹介するため、多目的ホールで野球、相撲などのスポーツカードを展示しました。※なお、1月～3月末までは「錯覚展」で多目的ホールを使用。

① 「2016 ベースボールカード」の展示

■会期：4月～9月

2016年の「ベースボールカード 1st バージョン」や「ルーキーエディション」「ヒストリックコレクション」「惜別球人」「プロ野球チアリーダーカード」を展示しました。

② 「2016 大相撲カード」の展示

■会期：4月～12月

相撲は、11月12日から始まった「はっけよい大相撲—木村浩之 日本画と力士像—」に合わせて順次「97相撲錦絵カード」「2015大相撲カード 粋」「2016年大相撲カード」を展示しました。

③ 「2016 ラグビーカード」の展示

■会期：4月～12月

「ジャパンラグビー トップリーグ 2016」を展示しました。

4、スポーツ協賛事業

地域のスポーツイベントに積極的に参加し、主催、協賛、実行委員会参加等の形で地域のスポーツ交流の促進に貢献しました。

① 第67回ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2016年5月21日（土）～22日（日）

主催：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場、薬師運動広場、青島野球場、小出中学校

記念講演会：21日 18:00～20:00 元巨人軍・篠塚和典氏の講演と実技指導

② 第12回さわやかジョギング大会

日時：2016年6月5日（日）9:00～11:30

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ 第7回南魚沼グルメマラソン

日時：2016年6月12日（日）8:30～17:00 前夜祭：11日（土）14:00～17:00

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

※実行委員会に1名参加し、出展業者としても参加（ウェア、入館券、ラフカディオ珈琲）。

④ 第9回八色の森健康ウォーキング

日時：2016年9月22日（木・祝）9:00～12:30

主催：八色の森健康ウォーキング実行委員会

※運営役員として2名参加

5、収益事業

1) 売店収入

本年度も作家の小作品や作品集、グッズ等をショップに飾り、企画展等に連動したミニギャラリーを開いて売上げ増を図りました。

2) 喫茶収入

癒しの場所として利用していただけるように、ラジオや「イケビふれあい通信」などで案内し、また、企画展と連動してコーヒーチケットを事前発売するなど売上げ増を図りました。

3) スポーツカードショー収入

スポーツカードの展示（多目的ホール）と連動した企画。スポーツファン、スポーツカードファンとの交流を促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目標に、収益拡大を目指してエントランスホールで実施しました。

① BBM スポーツカードショー2016春の陣 in 浦佐

（池田記念美術館エントランスホールで実施）

■日時：2016年4月2日（土）10:00～16:00 53名参加

② BBM スポーツカードショー2016秋の陣 in 浦佐

（池田記念美術館エントランスホールで実施）

■日時：2016年11月19日（土）10:00～16:00 56名参加

③ BBM スポーツカードショー2017冬の陣 in 浦佐

■日時：2017年1月28（土） 11:00～15:00 43名参加

6、その他

① 池田記念美術館 書道講座

■毎月第三土曜日開催 全12回 合計参加者87人

講師は佐藤海雲氏（当館アドバイザリースタッフ）。各回の主な内容は、4月／用具と書道の基礎、5月／楷書、6月／行書、7月／草書、8月／隸書、9月／篆書、10月／仮名と写経、11月／現代文、12月／倣書、1月／創作、2月／鑑賞、3月／展覧会への出品方法。参加者には実習を通して、書道の基礎を学び、練習の仕方や作品を制作するための題材の探し方などを考えてもらいました。受講生の実力に合わせた指導がわかりやすいと好評でした。

② 一箱古本市@池田記念美術館

■夏季：6月3日（金）～6月28日（火） 出店者31人

■冬季：1月7日（土）～1月17日（火） 出店者22人 ※雪見展と同時開催

出店者がワイン箱を使って古本を販売。出店者の個性が光り、本を介して出店者同士や来館者とのコミュニケーションが生まれ、好評でした。今年は、会期中、和綴じ体験ワークショップも開催。さまざまな本の魅力に触れることができる企画となりました。

③ ワークショップ 葉っぱdeアート in 池田記念美術館

■10月30日（日） 参加者19人

当館のアドバイザリースタッフ・長谷部昇氏を講師に、葉っぱを使ってアートを作るワークショップ。ネイチャーガイドの奥野正春氏から公園内をガイドしていただき、自然観察とアートを組み合わせたワークショップとなりました。子ども夢基金より助成金を受け実施しました。

④ワークショップ 木の標本を作ろう

■11月13日（日） 参加者19人

畠沢基由氏を講師に、公園の木の枝を使って、標本づくりを体験するワークショップです。午前中に公園を回って、樹木を観察した後、標本づくりにはいりました。自然観察とアートを組み合わせたワークショップです。子どもゆめ基金より助成金を受け実施しました。

⑤ 雪見展

■1月8日（日）～9日（月・祝） 2日間 2,645人

今回で3回目の開催。地元で手作り雑貨や食料品などを販売している40店以上のショップが集まりました。出店者と参加者の交流を重視し、対面販売を中心にしました。昨年同様、ワークショップや風の又三郎のデッサンコーナーを設置。年々参加者が増加しています。